

概要

2017.01～02に実施予定の参加型フィールドワーク第一期基盤整備（本作業）に先立ち、その事前作業として基盤整備（事前作業）を行いました。

第一期基盤整備（本作業）では、サイトNo.1・2・3を対象に、人力作業による田面掘削・畦畔補強等を予定しているため、基盤整備（事前作業）は、サイト区画の確認をはじめ、畦畔崩落の有無・田面掘削の可否の確認、及び、試験湛水等を目的としています。

草刈

第一期基盤整備（本作業）予定のサイトを対象に、ネザサを中心とする高茎草本の刈り取りを行いました。

耕作放棄後20余年を経過しており、サイトNo.2・3では特に、草丈3m超・太いもので直径2cm超のネザサの過剰繁茂が見られ（写真⑦）、立ち入りすらできない状況にありました（写真③⑤）。そのため、通常の草刈手順とは異なり、2m弱の高さで一旦刈り、次いで地面近くでもう一度刈るという2段刈りを要しました。

さらに、両サイトでは、湛水による抑草実験を予定しており、湛水時に水面より露出するエリアと水面下に水没するエリアの双方を設ける必要があるため、それぞれ、地面より20cmの高さを維持した高刈りと地表面と均平に刈る地際刈りを行いました。サイトNo.3では、草刈により、高さ3m超に生長したスギが発見されました（写真⑧）。スギの根茎は直根で、田面底の基盤土を貫通しそこから水が漏れるいはゆる底抜け現象の要因となることから、急遽伐採することとしました。

畦畔崩落の有無

いずれのサイトにおいても畦畔の崩落は見られませんでした。但し、サイトNo.2・3については、明確な畦畔が確認されないことから、湛水にあたっては、最低限畦畔の積み増しが必要です。

田面掘削の可否

サイトNo.1については、現状で掘削可能で、基盤整備により計画とおりの仕様が完成できそうです。

サイトNo.2・3については、その一部に抑草実験用の水深10～30cmの湛水域を設けることを予定していますが、両サイトともネザサが過剰繁茂しており、湛水域予定エリアの伐根に苦勞することが予想されます。

試験湛水

サイトNo.1では、フル湛水時の最深部として30～50cmの水深を予定していますが、基盤整備以前の現段階では湛水による畦畔破堤が懸念されることから、最深30cmを目処に試験湛水をし、湛水機能が確保されているかを確認することとしました。

経験則では、長期間の耕作放棄地においては、繁茂植生の根茎による底抜け現象や同じく植生根茎や動物の産卵・冬眠・営巣による畦畔の穴開き現象が予測されます。排水口は塞がず、手前に高さ30cmの堤体を仮設しました。最深30cm湛水でき、これより増水する場合には堤体をオーバーフローし排水口を通じ排水される仕様です（写真②奥に初期湛水の様子）。

サイトNo.2・3の湛水機能の確認は、基盤整備により畦畔積み増し後に試験湛水を実施する予定としています。両サイトとも過剰繁茂する植生の根茎による底抜け現象が懸念されます。

